

情報サービス系専門職の養成 (試案)

慶應義塾大学 文学部

高山 正也

司書の養成（日本）

文部科学省生涯学習局認可

- ・ 司書講習（2ヶ月間集中講義、Off-J-T）
- ・ 司書課程（短期大学以上、
必修：12科目18単位
選択：5科目2単位以上）

文部科学省高等教育局認可

* 学部専攻

* 大学院（学術修士課程）

司書：資格認定と教育・研修

- ・ 資格制度：「司書」
 - 不均質、研修・等級化の必要性
- ・ 教育システム
 - * 大学・学部
 - 課程：初学者；低水準に平準化
 - 講習：在職者；低水準の元凶
 - * 研究・教育リーダーの養成が不完全

司書資格取得者の就職（日本）

- ・ 国立国会図書館；資格不問
 国立国会図書館職員採用試験
 - ・ 公共図書館
 自治体職員採用試験（図書館学区分）
 - ・ 大学図書館・専門図書館；専門性の指標
 設置機関職員採用試験
- [就職率： 1%未満]

司書の養成（アメリカ）

- ・ アメリカ図書館協会（A L A）認定
- ・ プロフェッショナル・スクール
専門職大学院・実務経験のある学生

M L S + 主題専門学位（修士・博士）

- ・ 専門職としての異動⇒有資格者率が高くなる

司書資格取得者の就職 (アメリカ)

- ・ 図書館職経験者が過半
- ・ 認定図書館学校修了のMLIS
 - ⇒ 公共・大学・専門図書館
図書館相互間での異動
- ・ 図書館職員の構造
 - Professional + Clerical
 - 原則、専門職は全員が有資格

司書と学芸員

(司書)

- ・ 事務職
- ・ サービス
- ・ 学部卒
- ・ 文献の取り扱い
- ・ 出版物提供

(学芸員)

- と 研究
- と 研究
- と 大学院修了者
- と コレクションの中身
- と 文書保存

アーキビスト ← 学芸員

アーキビスト・司書・学芸員

- ・ 同一の基盤と異なる専門性
- ・ ・ ・ 同一の基盤
 - 記録された情報の管理
- ・ ・ ・ 異なる専門性
 - 対象とする資料
 - 社会的な期待 ⇒ 関係法令

アーキビストの養成（現行）

- ・ 教育

- * 歴史学者として養成：大学院歴史学専攻

- ・ 研修制度

- * 国立公文書館

- 公文書館等職員研修会（5日間）

- 公文書館専門職員養成課程（4週間）

- * 人間文化研究機構国文学研究資料館

- アーカイブズ・カレッジ（長期：8週間）

- （短期：2週間）

アーキビストの養成（提案）

- ・ 教育システム
 - ・ 研究・教育リーダーの養成
 - ・ 高度専門職業人の養成
 - ・ 初級職業人の養成と必要性の理解
- ・ 資格認定制度
 - ・ 高度専門資格 = 修士学位 + 実務経験
 - ・ 初級資格 = 学部での単位取得